

■岩松助左衛門 功績で抜擢され、海難事故を防ごうと灯台建設を決意、幕末・維新の動乱の辛苦を乗り越え実現。

いわまつすけざえもん

いざノ来航・1804= 豊前国企救郡長浜浦(小倉城下町隣の漁村)で、代々庄屋を務める岩松家に生まれる。

浮世床・・・1813= 9歳：

水野忠成老中1818=14歳：

蝦夷地直轄終1821=17歳：\_家督を相続して、庄屋に就任。

膝栗毛終・・・1822=18歳：

小倉沖は、西九州と日本海・瀬戸内海を結ぶ航路の要衝に当り、年間2万艘もの船が往来する上、白洲と呼ばれる暗礁があって、海難事故が絶えず、

富嶽三十六景1831=27歳：

天保大飢饉始1833=29歳：この年、熊本細川藩の米積み船が白洲で遭難、企救郡各浦の人たちが救助に協力し、半分は陸揚げするも、残りを紛失したことから、厳しく取り調べられ、130人もが投獄される。

滑稽+人情本 1835=31歳：この年、皮革を仕入れて小倉を出帆した船が白洲で遭難、

大塩平八郎乱1837=33歳：

適塾オープン・1838=34歳：この年、米沢藩主上杉侯の船が沈没するなど、

勸進帳初演・1840=36歳：

\_海難事故のたびに、浦の人々を救援に差し出し、積荷取得や日当の支給で生活の足しにはなるものの、乗組員の死などを見て、海難事故の防止こそ基本であると思うようになり、

阿部正弘首座1845=41歳：

北斎没・・・1849=45歳：

ペリー来航・1853=49歳：

五ヶ国条約・1858=54歳：

桜田門外変・1860=56歳：

遣欧使節・・・1861=57歳：

生麦事件・・・1862=58歳：

8月18日政変 1863=59歳

薩摩藩士密航1865=61歳

薩長同盟・・・1866=62歳

大政奉還・・・1867=63歳

明治維新・・・1868=64歳

戊辰戦争終・1869=65歳

初の日刊新聞1870=66歳

学問のすすめ1872=68歳

\*庄屋を辞任。長年の功績と経験が認められ、藩から小倉領海上御用掛・難破船支配役に任じられると、藩に灯台建設の許可申請書を提出して許可され、建設資金を確保すべく、絵図面を印刷して配布、有力者には挨拶して回るが、

\*尊皇攘夷論が沸騰し、長州藩が米・仏・蘭船を砲撃するなど、募金どころではなく、中断、

灯台建設を最も理解していた妻が急逝、

第二次長州征討の延長として、長州・小倉両藩の間で戦争となり、小倉藩が敗退、

講和が成立して、企救郡が長州藩預かりとなり、長州藩が小倉に置いた撫民局の管理下に入る。

\*撫民局から呼び出され、船の管理と郡内の山の調査を命じられ、熱心にこなして信用を得ると、局の代官に灯台建設の必要性を力説し、建築願書・募金願書を提出、賛成した代官が、藩政事堂に送り、

許可された上、藩からも補助が出るものの、白洲建築御用掛に任命された藩派遣西田又四郎と企救郡大庄屋広吉次助の指揮を受けることになり、彼らが募金のためと称して宴会などを開いたため、反対運動が広がり、さらに、凶作になって、ついに企救郡全域に及ぶ大百姓一揆が起り、広吉は辞めさせられ、

\*長州藩でも一揆が起きて、西田の家が打毀しに会うなどするうち、企救郡が日田県管轄になると、改めて知事松方正義に建築願書を提出して許可され、基礎となる石垣を完成させるが、募金協力者は少なく、私財を投じるもなお、多額の借金が残る状態だったところ、政府に設置された灯台寮から意見を求められ、それまでの経緯を説明、政府お抱えの外国人技師プラントンから、世界にも例の無い取組みと感嘆され、政府が引継いで工事することとなると、安心したのか病に臥し、

建設工事が始まり、子栄吉は灯台寮の役人に登用されるも、その完成を見ることなく、没した。

翌年完成後、私費を投入して建設してきた部分を政府が買取って、栄吉に下げ渡され、昭和36年になって、特旨をもって従五位が追贈された。